

## 基本目標 13 リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する

### 1 基本目標の2022年度の成果評価

#### (1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
<b>① 基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か</b>	
まとめ	<p>基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 全市的な観点に立つての土地利用の検討は妥当といえるが、市民の合意形成を図って行くには具体的な絵姿を提案していく必要がある。また農地保全政策との兼ね合いを捉えていくことも重要。</li><li>・ 現時点の基本目標は、リニアに関する記述が中心で、三遠南信道については殆ど触れられていない構成となっている。地域振興や経済効果を考えた時、三遠南信道の開通は大きなポイントとなることから、今後の方向性として視野に入れていくことが必要。</li></ul>

評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
<b>② 取り組みの内容をどう評価するか</b>	
まとめ	<p>取り組みの内容は、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ コロナ禍ということもあり、市民に対する情報発信が十分でなかったことから、駅周辺整備のみならず、その都度できうる限りの情報発信に努められたい。</li><li>・ 民間事業者と連携し、民間活力の導入についての検証が必要。リニア駅前広場・高架下空間の活用についても民間事業者との連携をどう描いていくのか、方向性を示し展開していくことが必要。</li><li>・ 基本目標の13は、リニアや三遠南信の開通効果をどう地域振興に活かしていくかの方向性を明確にし、広域的・全市的な観点に立った土地利用を検討した上で、社会インフラの強化等を進めることがねらいとしている。この前提の部分、リニアや三遠南信の開通効果、広域的・全市的な観点に立った土地利用の検討結果の部分が、取り組みの内容に反映されていない（遅れている）ように感じる。</li></ul>

### (3) 進捗状況確認指標

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
<b>進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か</b>	
まとめ	<p>進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リニア中央新幹線を地域振興への活かす為の駅周辺整備の進捗、中央自動車道との交通インフラ、二次交通を見据えたEV自動車の導入など、実務に合ったKPIとなっていることは評価できる。</li><li>・リニアに関する住民への情報発信の回数と、受け取ったと思われる概略の人数等、広報活動に関するKPIを検討されたい。</li></ul>

評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
<b>③ 実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況</b>	
まとめ（基本目標）	<p>2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況等については、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・デジタル化の推進について、急速に台頭してきた生成 AI の扱いをどうするか研究が必要。</li></ul>

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	13-①	<b>リニア・三遠南信時代を見据えた良好な土地利用の推進</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田市全体の土地利用のあり方を考えた時、リニアビジョンや都市計画図、農業振興地域整備計画図、その他防災ハザードマップなど、各レイヤーを重ね、それぞれの計画の整合性を図りつつ、全体の土地利用計画を推進する視点は大変重要なことであり評価できる。</li> <li>・一方で、交流重心にかかる土地利用・景観育成の検討は広く市民に関わる案件であり、意義や方向性について十分な理解が得られるよう説明・提案をしていくことが必要。</li> <li>・「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」や「眺望点」などの県と連携した取り組みは評価できるが、点の取り組みに留まっているように感じた。広域的・全市的な視点にたった土地利用・景観形成を進めていくためには、20地区を視野に入れた広域的な取り組みが必要。</li> <li>・「景観のあり方」について、リニア駅周辺整備の一環としてのみ検討が行われているようだが、ランドスケープについては過去の産業建設委員会において、例えば西部山麓線からの眺望などにも触れてきた経緯があり、三遠南信道を活かすためには重要な要素となる。専門家の知見も得やすい環境にあることから、「景観のあり方」の検討範囲を広げて取り組むことが必要。</li> <li>・土地利用計画の変更に係るリニア駅周辺の土地利用構想の検討は、市の政策の方向性と地元の意向による過去の経緯を踏まえながら、地元、及び議会への丁寧な説明を要する。</li> </ul>	

年度戦略 (小戦略)	13-②	<b>リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす 広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市道整備関連、リニア駅周辺整備関連、代替地整備関連、国県関連など、概ね計画通り進捗していることは評価できる。</li> <li>・一方で、広域的な道路ネットワークを考えた時、リニアや道路を利用する皆さんが、具体的な導線をイメージできるような展開が必要。</li> <li>・代替地については、約9割の地権者の皆さんに同意をいただいているとの説明であった。残り1割の地権者の皆さんについては、移転場所や補償額等さまざまな要因があると推測するが、引き続き地権者の皆さんに寄り添った丁寧な案内をお願いしたい。</li> <li>・リニア駅前広場や高架下の管理運営は施設整備後の大きな課題であり、民間活力を導入しながら着実に検討を重ねられたい。また、リニア開業の具体的な時期が見通せないと民間参入が難しいとの状況は理解するが、その中にある進捗状況は適宜説明されたい。</li> </ul>	

年度戦略 (小戦略)	13-③	<b>リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等を活用したスマートモビリティの実装技術</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
<b>戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか</b>		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの乗り継ぎがネットで検索できるオープンデータの整備や点群地図等を用い自動運転車両の導入について検証を重ねていることは評価できる。</li> <li>・市民バスの利用者数については、コロナ禍前の状態には戻っていないものの、前年対比でプラスの実績が出ていることは評価できる。</li> <li>・一方で、市民生活に欠かせない持続可能な地域公共交通を実現するためには、今後も更に精緻な実態調査を行ったうえで、方向性を検証していくことが必要である。現状は、特に乗り合いタクシーの利用者数がなかなか回復しない状況と認識している。全国の事例では、利用者数を増やすため、セダン車両の使用や医療機関の協賛広告などで利用料金を下げ利便性を改善している例もあり、参考にされたい。また、高齢者や免許返納者などの交通困難な方への対応は、喫緊の課題でありスピード感を持って進められたい。</li> <li>・自動運転車両の導入については、利用データや手法など、日々進化をしていくことが推測されるため、常に情報収集しながら、地域にマッチした導入手法を検証していくことが必要。</li> <li>・「この地域らしさを活かしたスマートモビリティ」の意味は「環境への配慮」とのことで、大切な取り組みと評価するが、一步進めて「環境に特化」という意識をもつことが、環境文化都市としての役割とを感じる。</li> <li>・JR 飯田線の存続に向けた取組みの強化を図られたい。また、飯田線との接続方法や周辺整備についての方針、進捗状況について適宜説明されたい。</li> </ul>	

年度戦略 (小戦略)	13-④	<b>市民サービスを向上するデジタル化の推進</b>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
<b>戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか</b>		
まとめ	<p>戦略計画は基本目標の達成のために、概ねその役割を果たしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸証明のコンビニ交付サービスやマイナンバーカードを利用した「書かない窓口申請システム」の導入、市からの情報発信力の強化のためのプッシュ型情報発信ツールを開始したことは、市民サービスの向上につながり評価できる。</li> <li>・DX を推進していくことは、市民生活の利便性の向上につながることに認識している。一方で高齢者など、デジタル社会に一線を引いている市民の皆さんも存在しているため、そうした皆さんを視野に入れた施策展開が必要。また、DXの推進については、他自治体との共同企画・利用など、広域的視点を持って取り組まれたい。</li> <li>・LINE によるプッシュ型情報発信の取り組みは評価するが、利用者数が伸び悩み傾向にある。例えば、自然災害発生時の情報伝達手段の一つとして、どのような効果が期待できるかをアピールするなどして、飯田市地域情報アプリと共に、利用者の増加に力を注がれたい。</li> </ul>	

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	
まとめ（年度戦略）	<p>2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況等については、概ね妥当であると評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リニア関連の情報を飯田下伊那の住民に如何に的確に届けられるかが、重要な課題。</li> </ul>